2013 年度の山口大学の国際交流活動

2014 年 3 月

山口大学国際戦略室

目次

はじめに ---------- 1

第 1 章　2013 年度の国際戦略室の活動 ---------- 3
1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」で見る 2013 年度の国際戦略室の活動 ---------- 3
2. 国際戦略本部及び国際戦略室 ---------- 28
3. 学術交流協定 ---------- 29
(1) 2013 年度の学術交流協定の締結等 ---------- 29
(2) 大学等間学術交流協定 ---------- 30
(3) 部局等間学術交流協定 ---------- 32
4. 海外拠点 ---------- 34
5. 本部への海外からの来訪者 ---------- 35
6. 本学学長等の海外訪問 ---------- 36
7. その他 ---------- 36
(1) 国際協力活動推進プラットフォーム ---------- 36
(2) 青年海外協力隊帰国報告会の開催 ---------- 37
(3) 国際会議、国際シンポジウムの開催 ---------- 37
(4) 政府開発援助（ODA）との連携 ---------- 37
(5) ODA 事業との連携実績 ---------- 38
(6) 研究者の交流 ---------- 41
(7) 職員の研修 ---------- 42
(8) 学内の国際化推進体制の整備 ---------- 42
(9) 留学生の促進策 ---------- 42
（参考）出身国・地域別留学生数の推移 ---------- 43
（参考）学術交流協定に基づく交換留学生数 ---------- 44

第 2 章　2013 年度の留学生部門の活動 ---------- 45
1. 留学生交流拠点整備事業を推進 ---------- 45
2. 山口大学・中国山東大学・韓国公州大学校３大学学生交流を開催 ---------- 45

第 3 章　2013 年度の学術研究部門の国際交流活動 ---------- 46
1. 独立行政法人日本学術振興会助成 ---------- 46
(1) 二国間交流事業　【共同獣医学部　音井威重教授】---------- 46

(2) 外国人招へい研究者（短期）　【工学部 山本修一教授】 ---------- 47
(3) 外国人研究者再招へい事業 ---------- 47
① 大学院理工学研究科 廣澤史彦准教授 ---------- 47
② 大学院医学系研究科（農学） 山田守教授 ---------- 48
(4) 論文博士号取得希望者に対する支援事業 ---------- 48
共同獣医学部　佐藤宏教授 ---------- 48
2. 山口大学／財団法人山口大学教育研究後援財団助成 ---------- 49
(1) 中国短期派遣研究者プログラム ---------- 49
① 経済学部　石龍潭教授 ---------- 49
② 大学院東アジア研究科　阿部泰記教授 ---------- 49
③ 農学部　山本晴彦教授 ---------- 50
(2) 研究者招へい事業 ---------- 50
大学教育機構　留学生センター　赤木彌生准教授 ---------- 50

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする　知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、グローバル化社会に対応する「チャレンジ精神、行動力、課題探求力があり、自ら人生を切り開くことのできるたくましい人材を育てる大学」を目指したいと思っています。また、地域社会や国際社会の発展に貢献できる人材育成大学としてさらなる発展を目指します。

山口大学は「知」の公共財として、大学を取り巻く地域のリソースと連携して、国際的貢献を担うべきであるとも考えています。2008 年 4 月に学長を本部長とする「国際戦略本部」を設置し、関連する他の部局とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、それに向けた活動を続けています。「国際」というキーワードは、教育と研究に幅広く複雑に関係しているため、国際化に関しても様々な意見や考えがあり、関連する活動も多岐にわたっています。

本報告書では、第 1 章にて本学において行われている国際化に向けた取組を 2013 年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第 2 章、第 3 章に掲載いたしました。

この報告書が、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の一端を知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様のお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進していきますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

2013 年度の山口大学の国際交流活動

1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」及び「TOPICS」で見る 2013 年度の国際戦略室の活動

○丸本学長がウダヤナ大学名誉教授および客員教授の称号を受称（掲載日：2013/05/29）

5 月 21 日（火）、丸本学長が、本学の協定校であるインドネシアのウダヤナ大学から、名誉教授および客員教授の称号を授与されました。これは、丸本学長が、「ODA による中小企業の海外展開」の一環で、多機能フィルター（株）と共同開発したマルタクシートを使って、インドネシアのバトゥール山の大噴火による荒廃地の緑化支援のための調査を行い、製品の土壌流失防止および植生の回復効果を実証したことが評価されたものです。ウダヤナ大学では、国内外を問わず、初めての名誉教授の授与であり、式典には、バクタ学長を始めとするウダヤナ大学関係者の他、在デンパサール総領事の柴田和夫氏、本学からは、服部副学長（国際・地域連携担当）、富本副学長補佐、堀工学部長らが出席し、マスコミも取材に訪れるなど、約 140 人もの人々が参列する大規模な式典となりました。

式では、まず歓迎のバロンダンスが披露され、その後、バクタ学長から丸本学長に称号が授与されました。バクタ学長、柴田総領事が、「今後も両大学のみならず、日本とインドネシアの交流の発展を望む」と挨拶し、続いて、丸本学長が、ウダヤナ大学との交流の経緯、自身の研究プロジェクトについてのプレゼンテーションを行いました。

そして、「このような栄誉ある称号をいただくことができ、大変光栄だ。これもウダヤナ大学、インドネシア林業省、多機能フィルター、そして、山口大学の関係者の皆さまのご協力があったからこそである。この受称が、環境保護の研究に携わっている若い研究者や学生にとって励みになると信じている。私自身も、今後より一層精進して参りたい」と述べました。

式典の中では、かつて山口大学に在籍した学生による、同窓会の立ち上げも行われ、式は終始和やかな雰囲気に包まれました。

丸本学長が、ウダヤナ大学における名誉教授第１号という栄誉ある称号を受けたことにより、今後、ますます、ウダヤナ大学およびインドネシアとの友好関係が発展し、緑化プロジェクトを通じて、「環境保全」という地球規模の課題に貢献できることを望みます。

○創基 200 周年記念「駐日ペルー共和国特命全権大使による講演会」を開催

（掲載日：2013/05/30）

5 月 27 日（月）、本学大学会館大ホールで、駐日ペルー共和国特命全権大使エラルド・エスカラ氏をお招きし、「日本とペルーの経済交流の展望について」と題して、講演会を開催しました。この講演会は、山口県ペルー協会との共催によるもので、学内外から約 80 人の参加がありました。

講演に先立ち、丸本学長から大使の紹介と、日本とペルーは今年国交樹立 140 周年を迎え、今後ますます交流の発展が期待される、との挨拶がありました。

講演の中で、エスカラ大使は、ペルーの面積、人口、GDP といった一般的な指標データ、日本とペルーとの貿易の現状等を紹介した後、投資対象国としてのペルーの強みや、ペルーが国際関係におけるミドルパワーとしてリーダーシップを発揮している事例について述べられました。また、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）への日本の加入の必要性、ペルー、コロンビア、メキシコ、およびチリから成る太平洋同盟の政治・経済面でのメリットと、世界と日本の同盟への関心の高さについても熱く語られました。

講演終了後の質疑応答では、大使に直接質問できる貴重な機会ということもあり、一般参加者からも積極的に質問が投げかけられました。それらの質問に、エスカラ大使は丁寧かつ詳細に答えられ、質問者を含む参加者にとって、有意義な講演会となりました。

ペルーと日本は、歴史的にも関係が深く、明治時代に日本からペルーへの移住が始まり、平成 21 年には日本人移住 110 周年を迎えました。山口県からの移住者も多く、ペルー山口県人会も組織されており、山口県ペルー協会は、山口県とペルー県人会とのパイプ役を果たしています。また、大使が講演で示されたように、現在ペルーは経済成長

著しい国であると同時に、多様な生態系を持つ国のひとつでもあります。目下ペルーのイニシアティブで、南米諸国の文化、社会、政治、経済面での統合も進められています。今回の講演会は、日本とペルーとの今後の経済交流について考えるよい機会となり、大盛況のうちに終了しました。

○丸本学長、ウィリアムソン夫妻顕彰碑除幕式及び長州ファイブ渡英 150 周年式典に出席　（掲載日：2013/07/23）

7 月 2 日、3 日に英国ロンドンにおいて開催されたウィリアムソン夫妻顕彰碑除幕式および長州ファイブ渡英 150 周年式典に、丸本学長ほか 5 名が出席しました。

7 月 2 日、ロンドン近郊のブルックウッド墓地において、ウィリアムソンご夫妻の顕彰碑除幕式が執り行われました。ウィリアムソン教授は University College London（以下 UCL）の化学の教授で、長州ファイブ、後発の学生を含めた日本人留学生を、物心両面で手厚く支援された方です。2007 年に長州ファイブと同時期に留学しながら客死した 4 名の日本人留学生の墓と同じ墓地内にウィリアムソン夫妻の墓が発見され、それ以降、墓の整備、顕彰碑の建立が進められました。除幕式では、安倍内閣総理大臣からウィリアムソンご夫妻に対し感謝状が贈られ、丸本学長は列席者代表のひとりとして日本人留学生の墓に献花を行いました。

翌 3 日は、UCL 構内の日本人留学生の碑前の特設会場において、約 300 名が出席するなか、午前(日本語)、午後（英語）の 2 回にわたり、長州ファイブ渡英 150 周年を記念する式典が行なわれました。この式典は、長州ファイブ渡英を日英学術交流の起点ととらえ、150 周年を節目として、さらなる日英交流の進展を期すために UCL 主催で行われ

たものです。雅楽「越天楽」の演奏にはじまり、グラント UCL 総長、林駐英日本国大使のスピーチのほか、伊藤博文の直系ひ孫である伊藤博雅氏作の絵「霊峰富士」が UCL に贈呈されました。式典の映像が UCL のウェブページに掲載されています。
http://www.ucl.ac.uk/news/news-articles/0713/03072013-UCL-and-Japan-150-celebration

また、7 月 5 日夕方、ロンドン及び近郊在住の山口大学卒業生が集い、丸本学長を囲んでの夕食会が開催され、海外で活躍する卒業生に対し学長からエールが送られました。

山口大学は、学術交流協定校である UCL との交流の充実をはじめ、日英の学術交流の発展に貢献し、また、新長州ファイブ、国際的に活躍する若者を送り出していきます。

○本学教育学部が淡江大学文学院（台湾）と学部間学術交流協定を締結

（掲載日：2013/08/05）

平成 25 年 7 月 23 日（火）、岡村教育学部長、邱淡江大学文学院長らが出席のもと、山口大学教育学部および淡江大学文学院（台湾）の間で学術交流協定が締結されました。

締結式は教育学部第三会議室で行われ、協定書への調印がなされると、会場内は大きな拍手に包まれました。

岡村山口大学教育学部長（左）と
邱淡江大学文学院長（右）

淡江大学代表団と締結式を見届けた本学教員の記念撮影

学術交流協定の概要は以下のとおりです。

(1) 学生の交流については、毎年 2 人までの学生（学部生／大学院生）を交換留学生として相互に派遣し、取得した単位を認定するとともに、受入先における学生や地域住民との交流や、教室内外における多種多様な交流を図る。

(2) 教員の交流については、授業見学や講演会の実施をはじめ、共同研究やインターネットによる教育・研究の成果の共同展示等を行う。

また締結式終了後には、淡江大学文学院の代表団をパネリストに迎えた記念シンポジウムが行われ、会場には教員・学生を合わせ 120 人を超える聴衆が集まりました。

今後、この協定をきっかけにして、両者のさらなる発展が期待されます。　なお締結式に先立ち、淡江大学文学院代表団は纐纈副学長と服部副学長の同席のもと、丸本学長を表敬訪問しました。

シンポジウムの様子（岡村教育学部長による挨拶）。
パネリストは右から林呈蓉教授、馬銘浩副教授、王慰慈副教授、林信成教授、邱炯友教授

シンポジウムの様子（会場の様子）

シンポジウムの様子（学生からの質問に答える林呈蓉教授）

前列左から邱淡江大学文学院長、丸本山口大学学長、岡村山口大学教育学部長

○学長が第 2 回インドネシア林業研究国際会議で講演　（掲載日：2013/09/03）

8 月 27 日（火）、インドネシア林業省主催の第 2 回インドネシア林業研究国際会議がジャカルタで開催され、基調講演、ポスターセッションに合わせて約 600 人が参加する中、丸本学長が基調講演を行いました。

インドネシアは豊かな自然に恵まれた国ですが、森林など自然資源の保全・管理においてさまざまな課題を抱えており、近年、インドネシア林業省は、森林保護と国民および地域の福利の改善を目標に掲げて、対策に取り組んでいます。折しも今年はインドネシアで林業の研究が始まって 100 年目に当たり、これを記念して 2 度目の国際会議が開催されました。

丸本学長は、「傾斜地という状況下の荒廃地の復興におけるマルタクシートと菌根菌の役割」と題して、環境破壊の原因、土壌侵食の防止ならびに緑化の重要性、および自身の開発したマルタクシートの役割とインドネシアのウダヤナ大学と共同で実施したバトゥール山におけるマルタクシート敷設による緑化の効果について講演しました。講演は多くの参加者の注目を集め、大変好評を得ました。

この会議には、林業大臣も参加するなど、森林保全はインドネシアにおいて重要課題となっており、本学も、今後、ウダヤナ大学との緑化シートを活用した共同プロジェクトを推し進め、インドネシアにおける環境保全問題の解決に貢献していきたいと思っています。

○SD 研修報告会を開催（掲載日：2013/11/05）

10 月 31 日（木）、吉田キャンパス大学会館において、平成 25 年度山口大学職員海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修に参加した職員の帰国報告会を開催しました。

平成 24 年度に、本学工学部が文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択されたことに伴い事務系職員の国際化への意識および能力向上を目的として、SD 研修の拡充を図ることになり、今年度は合計 15 名の職員が本研修により海外に派遣されることが決まっています。

今回の報告会では、9 月末までに海外派遣を終えた 8 名の職員に、スリランカでの日本留学セミナーに参加した職員 1 名を加え、合計 9 名によるプレゼンテーションが行われました。

海外研修に参加した職員はそれぞれ、SD 研修参加のきっかけや研修前の思い、研修先で学んだこと、研修の成果を今後山口大学でどのように生かしていくかについて述べ、渡航先での写真を披露しながら、現地での様子を生き生きと伝えました。発表後には、報告を聴いた職員からの質問が飛び交い、活発な意見交換が行われました。

本研修は、海外の大学の管理・運営体制について学び、その知識や経験をもとに、本学の状況を客観的に見て事務改善に資することを目的に実施しています。今回の研修参加者は皆、初めての海外研修に大いに刺激を受けており、研修の効果は予想以上でした。

報告会冒頭の挨拶で、学長戦略部長が「勇気」を持って行動することの重要性を述べられたように、職員全員がこの研修参加への「一歩」を踏み出すことを期待すると同時に、今後も、学生のみならず職員のグローバル人材育成を念頭に、本研修の充実を目指したいと思っています。

○カンボジア運動会プロジェクト壮行式を開催　（掲載日：2013/11/13）

11 月 11 日（月）、吉田キャンパス事務局 2 号館第 2 会議室にて、「カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト（略称：運動会プロジェクト）」壮行式を開催し、カンボジアに向けて出発する学生らを激励しました。

本プロジェクトは、本学教育学部保健体育教室と近畿大学九州短期大学、中村学園大学、西南学院大学、福岡大学の学生および教員が参加し、現地の小学生を対象とした大運動会を実施するもので、現地の実状にあった体育の授業を子どもたちに届け、運動会を通して体育の楽しさを知ってもらい、体育授業の確立につなげたいとの思いから、平成 24 年度に開始されたものです。今年度は、現地からの要請を受け、小学生のみならず、中学生や高校生も参加する運動会を開催し、また、現地の教員向けに体育授業に関する研修も実施する予定です。さらに、昨年度と同様、この活動のなかで、カンボジアの子どもたちに文具を贈ることも予定しており、文具寄付への呼び掛けには、多くの方々からご支援をいただきました。

式では、丸本学長から、「昨年度の活動は、社会的に大きな反響があった。この活動は学生の皆さんにとっても貴重な経験になると思う。健康に留意して、元気に行ってきてください」と激励の挨拶があり、これを受け、本プロジェクトの学生団長の入江航生さん（教育学部 4 年）が、「今年度は、運動会のプログラムのバリエーションも増やしており、前回の経験を踏まえて、より充実した内容の運動会を実施したい」と決意を述べました。また、運動会係長の佐藤幸司さん（教育学部 3 年）が、現在の進捗状況と運動会の実施内容を説明した後、参加する学生一人ひとりが、プロジェクトにかける熱い思いを述べました。最後に、本プロジェクト代表の海野教授が、「昨年度の活動を通して、学生にボランティア精神が芽生えた。今年度は、先生のお手伝いという意識ではなく、学生が自主的に活動している。その精神の現れとして、2013 年 7 月末の山口県の豪雨災害の際にも、彼らは、援助活動に出向いている。また、今年度のプロジェクトは、現地からの強い要請に基づき実施するもので、日本国内においても、さまざまな反響があった。是非ともプロジェクトを成功させたい」と挨拶しました。

今回は、教育学部のみならず、農学部の学生の自主的な参加もあり、運動会の規模も拡大しています。学生らは、11 月 23 日に日本を発ちカンボジアに向かい、1 週間現地で活動した後、12 月 1 日に帰国する予定です。この活動を通じて、ますます国際ボランティア活動の輪が広がり、本学の学生が積極的に国際協力活動に参加することを願っています。

○マレーシア工科大学から職員ら 15 人が来学　（掲載日：2013/11/25）

11 月 21 日（木）、マレーシア工科大学（UTM）の職員および学生 15 人が来学し、吉田キャンパスを訪れました。一行は、UTM が実施している、職員および学生の国際理解の深化を目的とした研修“Global Outreach Program”により来日したもので、山口以外にも、広島、神戸、大阪、東京を視察する予定です。UTM には、日本の工学教育システムをマレーシアに導入するために、円借款により、マレーシア日本国際工科学院（MJIIT）が設置されており、本学では、大学院技術経営研究科が技術経営分野で幹事校として、協力しています。その関係で、UTM と本学との間には、平成 24 年に学術交流協定が締結され、以来、両校は交流を深めており、今回の訪問も交流事業の一環として行われました。

当日、一行は、まず図書館を見学し、運営方法、導入されているシステムについて視察した後、大学会館に場所を移し、本学の各担当者から危機管理に関する説明を受けました。その後、UTM の危機管理担当部署の Khairull 氏および服部副学長がお互いの大学を紹介し、記念品を交換して、本学でのプログラムを終えました。

本学とマレーシアは、工学部におけるツイニングプログラムをはじめ、さまざまな交流を実施しており、この訪問をきっかけに、本学とマレーシアの交流が益々発展することを期待します。

○丸本学長らが山口大学－山東大学学術交流 30 周年記念式典に出席（掲載日：2013/11/28）

30 周年式典出席者記念撮影

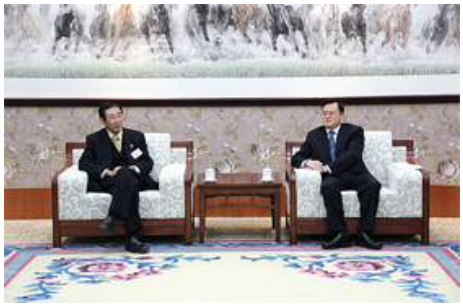
11 月 13 日（水）～14 日（木）、山口大学の訪問団が山東大学を訪れました。

11 月 13 日、山口大学訪問団は 10 月に新たに就任した山東大学張栄学長を表敬訪問しました。両学長の会談の席では、張学長から丸本学長に対し歓迎の意が述べられるとともに、今後も両大学の友好関係を続けていきたいとの発言がありました。これを受けて丸本学長より、両大学の今後さらなる交流発展を確信したとの感想が述べられました。

11 月 14 日には、山口大学－山東大学学術交流 30 周年記念式典が開催され、本学から丸本学長、服部副学長ほか研究者ら 14 名が出席しました。式典後、両大学の代表者の挨拶や記念品交換が行われました。引き続き行われた座談会では、両大学の教員、留学生、研究者からの発言があり、最後に丸本学長が「山口大学と山東大学学術交流 30 年のあゆみ」と題し、講演を行いました。

午後からは、医学系、経済・観光系、法学系に分かれて分科会が開催され、各分科会では、今後の両大学の交流を発展
させるための活発な意見交換や協議が行われました。

今回の式典開催を契機に、山口大学は山東大学との交流をさらに発展させるとともに、東アジア地域をターゲットとした国際化を推進していきます。


張学長表敬訪問

山口大学－山東大学 30 周年式典

○カンボジアで運動会を開催　（掲載日：2013/12/05）

11 月 23 日～11 月 30 日、本学教育学部の学生を中心とした「カンボジア運動会プロジェクト」のメンバーがカンボジアを訪問し、現地小・中・高等学校にて運動会を開催しました。

本プロジェクトはカンボジアにおける運動会の定着を目指すために昨年度から実施されています。今年度からは現地からの要請を受け、中学生や高校生も参加する運動会を行いました。事前の企画や運営、現地での準備や当日の運営には、山口大学の学生、近畿大学九州短期大学、中村学園大学、西南学院大学、福岡大学の学生も参加しました。

この時期、カンボジアは乾季で、年間を通しても最も日差しの強い時期であり、現地での事前準備や当日の運営等、屋外での一連の活動は過酷なものでした。こうした厳しい気候にも関わらず、学生らは一丸となって運動会を成功させようと最大限努力し、その取り組みが功を奏し、現地の生徒達からは笑顔がこぼれ、運動会大成功に終わりました。また、運動会では、生徒のみならず、近隣の住民の方も参加できる競技も行われ、大きな盛り上がりを見せました。

現地での一連の活動を終え、帰国した際の解団式では、入江団長から無事に運動会をやり遂げた達成感と次年度以降の活動に向けた決意が述べられました。また、プロジェクトの代表である海野教授からは、参加学生へのねぎらいの言葉と、今後の活動に向けての抱負が語られました。

今後も、このプロジェクトを継続して行い、カンボジアの子どもたちが笑顔で楽しく体を動かせるように、カンボジア各地での運動会開催を目指します。

なお、この運動会の模様が 12 月 4 日、5 日、6 日の三日間、山口放送の「スクープアップ山口」で放送されますので是非ご覧ください。

○第 9 回 Young Scientist Seminar を開催（掲載日：2013/12/05）

平成 25 年 11 月 18 日（月）から 19 日（火）の 2 日間、山口県セミナーパークで、第 9 回 Young Scientist Seminar（9th YSS）を開催しました。今回は、日本人の大学生および大学院生 52 名と、計 6 カ国からの外国人若手研究者と留学生 46 名を含む総勢 98 名の参加がありました。

本セミナーは、生物学を研究対象としている若手研究者の国際交流とプレゼンテーション／コミュニケーションスキルアップの目的で開催されたもので、本学の学生が中心となりその運営を行っています。

セミナーでは、はじめに実行委員長の Nguyen Thi Minh 氏（外国人研究者として山口大学に在籍中：ハノイ農業大学）と服部幸夫副学長（山口大学）が開始の挨拶を行いました。初日は 3 題の招待講演があり、その後で参加者は 8 つのグループに分かれて口頭発表および研究討議を行いました（発表題数：82 題）。この研究討議により各グループから代表発表者が選出されました。

2 日目は、招待講演 3 題とグループより選ばれた若手研究者 8 名による研究発表が行われ、Fariha Jasin Mansur（山口大学大学院修士課程学生）が Best Presentation Award を獲得しました。最後に、アドバイザリーメンバーである高坂智之助教（山口大学）の挨拶で 2 日間のセミナーが終了しました

講演会の様子

グループディスカッションの様子

懇親会の様子

○ウダヤナ大学（インドネシア）前学長のバクタ博士に名誉博士号を授与

（掲載日：2013/12/19）

平成 25 年 12 月 17 日（火）、山口大学の学術交流協定校であるインドネシア・ウダヤナ大学の前学長イ・マデ・バクタ博士への山口大学名誉博士号の授与式が行われました。

バクタ博士は現在、ウダヤナ大学において血液内科・腫瘍内科学科の学科長を務められており、専門は貧血一般、特に鉄欠乏性貧血に関する研究です。博士は、長年の研究により血液分野での臨床医学の発展に大きな足跡を残し、インドネシア国内外で血液疾患に悩む人々を救うための道筋を切り開いてこられました。また、2007 年にウダヤナ大学と本学とが学術交流協定を締結して以来、衛星リモートセンシングによる環境・防災に関する教育・研究プロジェクトおよび微生物共生による植林再生プロジェクトの共同事業の確立に尽力されました。現在この 2 つのプロジェクトは、インドネシア政府、文部科学省、外務省、JICA の支援により順調に進展しており、本学の特色ある国際貢献活動のひとつとなっています。

バクタ博士の今日までの研究業績を称え、本学との国際協力の推進に貢献された博士の活動に敬意を表し、このたび、山口大学名誉博士号を授与することとなりました。

式では、丸本学長が、バクタ博士の業績を称えるとともに、この授与は、我々が、今後もウダヤナ大学から多くを学び、社会に貢献したいという強い意思の表れであるとの言葉がありました。また、服部副学長からは、バクタ博士の研究姿勢への敬意と今年 5 月に丸本学長がウダヤナ大学名誉教授および客員教授の称号を受けたことへのお礼の言葉が述べられました。

祝辞に続き、丸本学長からバクタ博士へ山口大学名誉博士号が授与され、会場は大きな拍手につつまれ、バクタ博士も喜びを隠せない様子でした。

最後にバクタ博士から挨拶があり、丸本学長や山口大学関係者への謝辞が述べられました。バクタ博士は、栄誉ある名誉博士号の受称は喜びであり、これを機に、山口大学とウダヤナ大学の関係がスワスティカ学長のもとでますます発展して欲しいと述べました。さらに博士は自身の研究についても紹介し、参列者は熱心に耳を傾けていました。

このたびのバクタ博士への名誉博士号授与を契機として、博士の研究が今後さらに発展し、ウダヤナ大学と本学との協力関係が強固で実りあるものになることを期待します。

○重点連携大学選定～学長との懇談会を開催～　（掲載日：2014/01/20）

山口大学は、大学全体のレベルアップと世界大学ランキングの順位上昇を目指し、学術交流協定校の中から、本学の研究力向上につながると期待できる海外大学との研究連携強化を目的として、以下の大学を重点連携大学に選定しました。

1 月 9 日（木）と 16 日（木）には、2 つのグループに分けて、重点連携大学との共同プロジェクトを実施する担当教員と丸本学長との懇談会を開催しました。

懇談会では、各研究代表者が自身のプロジェクトの概要について説明し、これを受けて行われた質疑応答では、異なる分野の教員同士ならではの率直かつ客観的な意見交換が活発に行われ、参加者にとって大変有意義な場となりました。

丸本学長は「これまで先生方が努力し実施してきた国際交流が、ようやく実を結びつつある。過去の交流実績は、山口大学にとって財産であり、2015 年の創基 200 周年記念式典には、ぜひ、過去に交流のあった海外の方々にも来てほしい。また、国際交流だけでなく、支援の意味での国際協力を実施していくことも大切だ。これをプラスαの仕事と捉えないでほしい。必ず自身の研究の糧になるはずである」と述べました。

各プロジェクトは、それぞれ特色があり、今後の発展が見込まれるものばかりですが、共同プロジェクトの相手大学が重点連携大学に選定されたことで、大学としての支援が可能となり、研究が推進しやすくなります。また、このたびの懇談会は、他の教員の研究について知る貴重な機会ともなり、より一層学部横断的な研究が進み、大学の研究力向上につながり、山口大学が、「明日の山口大学ビジョン」に掲げるとおり、2020 年にキラリと光る大学となることが期待されます。

重点連携大学

大　学　名	研究代表者　所属・職・氏名
UCL（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）	医学系研究科（工）・教授・上村　明男
梨花女子大学校（韓国）	医学系研究科（医）・教授・清水　昭彦 東アジア研究科・教授・横田　伸子
ウダヤナ大学（インドネシア）	理工学研究科（工）・教授・三浦　房紀
淡江大学（台湾）	教育学部・准教授・上原　一明
カセサート大学（タイ）	医学系研究科（農）・教授・山田　守
チュラロンコン大学（タイ）	医学系研究科（農）・教授・山田　守 共同獣医学部・教授・音井　威重

重点拠点国　　タイ

○青年海外協力隊帰国報告会を開催（掲載日：2014/01/24）

1 月 22 日（水）、吉田キャンパスにて、本学卒業生の森山朋子さん（教育学部卒）による青年海外協力隊帰国報告会を開催しました。森山さんは、平成 23 年度第一次隊としてグアテマラ（職種：小学校教育）へ派遣され、2 年 6 か月の派遣期間を終えて昨年 12 月に帰国したばかりです。現地での旬な体験を聞こうと、報告会には学内外から約 40 人もの人たちが集まりました。

森山さんは、報告の中で、赴任当初は、言葉の壁や変化を拒む現地教員の心理的な壁を感じ、落ち込んだ時期があったものの、周りの人々の支えにより、徐々に現地の人たちとの絆を深め、理解し合えるようになったこと、また、協力隊として海外経験を積んだ結果、自分の中で起こった一番の変化は、周囲の方々への感謝の気持ちを持てるようになったことだと述べました。

会場からは多くの質問が挙がり、グアテマラが抱える教育問題、また、帰国後現地での経験をどう生かすのか、などについて、森山さんはひとつひとつ丁寧に答え、参加者は活動についての理解を深めました。

森山さんは、一歩踏み出す勇気を持つことの大切さについて熱く語り、参加者は、貴重な体験談に触れて、大いに勇気づけられ、鼓舞された様子でした。この報告会を通じて、より多くの本学学生が、日本国内のみならず、海外での活躍の場を見出してくれることを期待します。

○英語カフェを開催（掲載日：2014/02/06）

1 月 29 日（水）および 30 日（木）の両日、職員に気軽に英語に触れる機会を提供しようと吉田キャンパスにて英語カフェ（通称：E-café）を開き、イギリスとオーストラリアからの留学生 4 名と職員約 20 名が参加しました。

このカフェは、職員の自発的な参加に基づく企画のため、昼休みを使って行われました。当日はいくつかのグループに分かれてお互いの自己紹介をし、それぞれの出身地や山口での生活についての情報交換も英語で行いました。

日頃英語に触れる機会が少ない職員は英語のみでの会話に苦戦を強いられておりましたが、手作りの資料や画像を使って自己紹介を行う職員もおり、それについても互いに質問し合うなど、お茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中で留学生と職員は共に楽しいひとときを過ごしました。

参加した留学生の一人は、職員とプライベートで話す機会がほとんどないため、今回の経験は貴重であり、職員がもっと英語を話せるようにお手伝いをしたいと感想を述べていました。

山口大学には現在 300 名を超える留学生が在籍し、今後、留学生数は増加すると見込まれています。また毎年海外からの研究者も数多く迎えており、学内の国際化が進んでいます。今後ますます海外の大学・機関との交流が盛んになる中でそれを支える国際マインドを持った大学職員養成が急務となっています。

今回の英語カフェの実施が職員の英語力向上のきっかけとなり、大学の国際化を後押しすることを期待します。

○JICA 副理事長が来学　（掲載日：2014/02/20）

2 月 18 日（火）、国際協力機構（JICA）の堂道秀明副理事長が来学し、丸本学長と本学の国際協力活動に関し懇談を行いました。

山口大学は、山口地域の国際社会とのかかわりを強化し、山口に住む人々の生活・文化の向上、並びに地域産業・経済の活性化と発展に寄与するために、産・学・公・民の連携による国際的活動を推進する「やまぐち国際協力の里」構想を掲げ、これに基づき、外務省および JICA の「ODA を活用した中小企業の海外展開支援」を含むさまざまな国際協力活動を実施しています。

懇談会では、堂道副理事長から、「山口大学に今後ますます国際協力活動において中心的役割を果たしてほしい。若い人たちのグローバルマインドの養成も大切である」との激励の言葉と、本学の活動に関するさまざまな助言がありました。堂道副理事長は、インドを例に挙げ、いずれ日本を追い越す国であり、国際協力という姿勢ではなく、共に強くなっていく「連携」の姿勢が必要だとも述べました。これに対し、丸本学長は、「国際協力活動を推進してきた結果、教員らの意識も変わりつつある。今後も山口大学が中心となって地域のグローバル化を推進していきたい」と活動への意欲を示しました。

山口大学は、堂道副理事長の訪問をきっかけに、新たな国際協力活動を展開していきたいと思います。

○経済学研究科修了生（バングラデシュ）による講義および学長表敬訪問

（掲載日：2014/02/20）

大学院経済学研究科は、2 月 10 日（月）～2 月 13 日（木）の 4 日間、経済学専攻公共管理コース学生を対象とした集中講義を実施しました。講師には、当コースの第一期修了生であり、現在、バングラデシュ政府（Planning and Development）において、Director として務められている Md. Mosta Gausul Hoque 氏をバングラデシュ国よりお招きしました。講義では、日々の実際の業務から得られた経験等を基にお話をいただき、大変実り多い実践的な講義となりました。

また、2 月 14 日（金）には、Mosta 氏が公共管理コース委員会委員長である経済学部の馬田教授とともに、丸本学長を表敬訪問されました。丸本学長および服部副学長（国際・地域連携担当）との懇談では、本学バングラデシュ修了生の帰国後の活躍および日本国際協力機構（JICA）による JDS 事業についての話が挙がりました。その後、丸本学長より山口大学バングラデシュ同窓会設立の依頼をされ、Mosta 氏も快く協力を承諾されました。懇談は、終始和やかな雰囲気で行われ、表敬訪問は終わりました。

今回の Mosta 氏の来学は、講義の受講生のみならず、本学にとっても大変満足したものとなり、今後のバングラデシュ国と本学との関係においても非常に有意義なものとなりました。

○山口大学学生が青年海外協力隊に合格　（掲載日：2014/02/24）

山口大学教育学部（スポーツ健康科学コース）4 年生の村山寛さんが、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊（平成 25 年度秋募集）に合格し、2 月 20 日（木）、丸本学長に報告を行いました。
村山さんの職種は体育教育で、平成 26 年 10 月から 2 年間カンボジアに派遣され、ボランティアとして、現地の小学校で体育授業の実践、調査および教員への助言などを行う予定です。日本の体育教育の知識や経験を生かし、カンボジアの体育授業の確立に貢献することが期待されています。

丸本学長は、「2 年間の海外経験は必ず後の人生で役に立つ。健康と安全に留意して、楽しんできてほしい」と村山さんを激励し、村山さんは、「現地で体育の楽しさを伝えたい」と意気込みを語りました。

山口大学では、平成 24 年度から毎年、青年海外協力隊として海外で活動し、帰国した元隊員による帰国報告会を開催しており、報告会への参加者は、元隊員の貴重な体験談を通じて、海外で国際協力活動を行うことの素晴らしさや苦労を身近に感じています。また、元隊員のたくましく成長した姿に勇気づけられ、海外青年協力隊への参加に意欲的な学生も出てきています。

山口大学は、村山さんが、2 年間、元気にカンボジアで活動し、貴重な経験を通して、人間力とバイタリティにあふれた、世界に羽ばたく人材となることを期待します。

○重点連携大学　梨花女子大学校とのキックオフ・プロジェクト開催

（掲載日：2014/03/04）

３月１日（土）、吉田キャンパス大学会館で、日韓の非正規労働問題研究者や当事者が一堂に会し、「非正規労働者と貧困問題」日韓フォーラムが開催されました。このフォーラムは、日本と韓国の関係者がお互いの国の非正規問題の実態を知ることにより、労働者の働く権利を守り、生存権を保障する社会を創出するための運動と連帯の一助となることを目的として、山口大学大学院東アジア研究科の主催で行われたものです。

山口大学は、海外の学術交流協定校のうち、6 大学を重点連携大学と選定して、研究連携の強化を図り、研究力と大学全体のレベルの向上を目指しています。梨花女子大学校はそのうちのひとつです。今回のフォーラムは、本学と梨花女子大学校が今後研究交流を深めていく上でのキックオフ・プロジェクトと位置づけられています。

当日は、非正規労働問題を社会的な課題とすることに成功した梨花女子大学校の第一線の研究者らが、貧困女性への支援の分析や非正規労働の実態等について講演を行いました。また、日本側からは、ワーキングプアの実態や自動車メーカーマツダの派遣切り訴訟の裁判の状況と法規制についての報告が行われました。単なる統計上の数字ではなく、綿密な調査に基づいた報告に対し、会場からは多くの質問があがり、報告後に行われた統括討論では、日韓両国が抱える非正規労働問題の共通点、相違点等について、より理解を深めることができました。

休憩時間には、日韓の今日の労働者の姿や運動を克明に描いた映画「希望のバス」が、オ・ソヨン監督自らが編集したダイジェスト版で上映されました。

山口大学では、このフォーラムをきっかけに、梨花女子大学校との連携をさらに強化しながら共同研究を発展させ、新たな労働者の権利を保障する制度の確立につなげていきたいと考えています。

○大連外国語大学との学術交流協定記念式典に出席　（掲載日：2014/03/13）

平成 26 年 3 月 7 日（金）、纐纈理事、植村東アジア研究科長、福屋留学生センター長、石経済学部教授らが、大連外国語大学（中国）で開催された学術交流協定締結記念式典に出席しました。

山口大学と大連外国語大学は、平成 25 年 12 月 30 日に学術交流協定を締結しましたが、このたび、先方の配慮により改めて記念式典が開催されたもので、大連外国語大学からは孫学長他 6 名の大学代表者が列席しました。

大連外国語大学は、大連市旅順に立地する中国東北地方唯一の外国語の専門大学で、特に「日本語学院」の日本語研究および日本語教育の水準は、中国でもトップレベルとされています。また「漢学院」は、外国人に中国語を教える著名な機関で、毎年 1,000 人以上の留学生を受け入れており、国際化が進んだ大学として知られています。

記念式典後に開催された両大学代表者による交流協議では、大連外国語大学から、日本語を学ぶ学生を多数山口大学に派遣したいとの要請がありました。また、学生との懇談会でも、山口での生活や大学での教育内容について多くの質問が出て、本学に対する関心の高さと期待の大きさが感じられました。

現在山口大学では、優秀な留学生の獲得を目指して、渡日前入試等新しい入試制度の創設や海外オフィスを通じた広報活動を推進しています。このたびの大連外国語大学との学術交流協定締結を契機として、より多くの中国人留学生を本学に迎え入れることができるよう、これらのプロジェクトをさらに拡大していきたいと思っています。

○「平成 26 年度　山口大学「やまぐち国際協力の里」中小企業海外展開支援に関する説明会」を開催（掲載日：2014/03/27）

3 月 18 日（火）、吉田キャンパス大学会館にて、山口大学と国際協力機構（以下「JICA」）の共催で、中小企業の海外展開支援のための説明会を開催しました。この説明会は、本学が推進している山口大学「やまぐち国際協力の里（以下「里」）」の事業の一環として行われたもので、JICA の中小企業支援メニュー及び申請する際の本学のサポート内容を紹介し、県内の中小企業の海外展開を後押ししようというものです。

当日は、JICA 中国国際センターの西宮所長が、支援メニューについての説明を行った後、実際にこの支援メニューにより、本学と協力してインドネシアで事業展開している、多機能フィルター株式会社の山本社長が、事例を紹介しました。また、国際戦略室沼田コーディネーターが、本学のシーズの活用方法と、JICA メニューへの申請の際に行うサポート内容を紹介しました。

さらに、畠中特別顧問が、中小企業との連携を通じた、地域の国際化と振興における「里」の役割に期待を表明したのに対し、丸本学長が今後の活動への決意を述べました。説明会の後には個別相談会を実施し、JICA の担当者や各演者に加え、本学の研究成果や技術を産業界に活用してもらうための技術移転活動を推進し、地域経済の発展に貢献する目的で設立された山口 TLO の山本社長、さらには中小企業支援の強化に取り組んでいる山口県庁の商工労働部新産業振興課の福居主任も相談対応者として参加して、海外展開や JICA の支援、本学との連携に関心を持つ企業と活発な意見交換が行われました。

山口大学は、県内企業との連携を推し進め、積極的に地域振興に貢献していきたいと考えています。

○SD 研修報告会を開催（掲載日：2014/03/27）

3 月 25 日（火）、吉田キャンパス第 2 会議室で、平成 25 年度山口大学職員海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修に参加した職員による、2 回目の帰国報告会を開催しました。

本学では、工学部が文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択されたことに伴い、職員の国際化を進めており、今年度はSD研修を拡充して、合計13名の職員が本研修により海外に派遣されました。10月に上半期の渡航者8名と留学フェアに参加した職員1名による第1回の報告会を開催したのに続き、今回は、下半期に渡航した5名が、プレゼンテーションを行いました。

報告会では、研修参加者から、派遣先の大学で得た知識に基づいて業務改善の提案がなされた一方で、なぜ国際化が必要なのかという問いも投げかけられ、報告会に参加した職員にとっては、本学の運営方法について改めて考える良い機会となりました。

山口大学は、引き続き来年度も、職員のグローバルマインドの養成を目指し、海外派遣SD研修を充実して、多くの職員を海外に派遣するとともに、派遣者が習得した知識を学内に広め、業務運営の向上に努めていきたいと考えています。

平成25年度SD研修の派遣先等一覧

日程	渡航先	出張者	
8/19-8/23	ウダヤナ大学	経済学部 総務企画係	田中友理
		総務部 人事課	津田文香
		工学部 技術部	上田政洋
9/9-9/14	チェンマイ大学	産学連携課 産学連携係	芝崎理恵
9/24-9/27	大葉大学	情報推進課 情報基盤係	内藤大地
		工学部 学務課 学生係	金谷卓思
		経済学部 総務企画係	和崎克司
		工学部 契約第二係	斉藤康平
11/12-11/15	ハノイ農業大学	共同獣医学部連合獣医総務係	久樂克則
11/18-11/22	山東大学	経済学部 学務係	藏永理絵
		工学部 経理係	岡部裕紀
11/18-11/24	カントー大学	人文学部・理学部総務室	小笹綾子
3/5-3/8	カセサート大学・ ラジャマンガラ工科大学	農学部 総務企画係	宗岡義和

○山口大学クアラルンプール国際連携オフィス開所式　（掲載日：2014/03/31）

3 月 28 日（金）、マレーシア日本国際工科院（MJIIT）にて、山口大学クアラルンプール国際連携オフィスの開所式が行われ、山口大学からは、上西大学院技術経営研究科長、松浦同研究科教授らが、また、MJIIT からは、Shahrum 副院長、山本副院長、Nooh 技術経営学科長および山口大学から現職で派遣され、クアラルンプール滞在中の大島准教授らが参加しました。

MJIIT は、日本の工学教育システムをマレーシアに導入する目的で、円借款により、日本の大学の支援のもと、2011 年に開校し、本学は技術経営分野で幹事校として協力しています。今後、本学と MJIIT との間では、ダブルディグリープログラム等のさまざまな交流プログラムが開始され、交流がさらに活発化する見込みであることから、両校間のコーディネートおよび運営業務の拠点として、オフィスを設置したものです。

式では、まず出席者全員の紹介が行われ、Shahrum 副院長から、オフィスが、山口大学と MJIIT との間のダブルディグリーやインターンシップなどの交流活動の礎になることを期待する、と挨拶があり、続いて、Nooh 学科長が、オフィス設置により、双方の交流プログラムが益々発展するよう望む、と期待をこめて述べました。さらに、上西研究科長は、このオフィスは、山口大学で 6 番目の海外オフィスであるが、もっともアクティブなオフィスにしていく、と活動推進に意欲を示し、オフィス開設を支援した MJIIT への謝意を表しました。

最後に全員で記念撮影が行われ、式は終始和やかな雰囲気で終了しました。これをもって、いよいよクアラルンプールオフィスが本格的に始動します。

山口大学は、今後も、MJIIT との連携を通じ、マレーシアにおける教育の質の向上に貢献するとともに、マレーシアとの交流をより一層深めていきたいと思っています。

○第７回　Choshu-London シンポジウムを UCL で開催（掲載日：2014/04/01）

2014 年 3 月 12 日(水)、上村医学系研究科教授、西形理工学研究科准教授、上條理工学研究科准教授が、ロンドン（英国）の University College London（UCL）を訪問し、第７回 Choshu-London シンポジウムにおいて招待講演を行いました。UCL は幕末の長州ファイブが留学した大学として知られています。彼らを最初に世話した Williamson 教授は UCL 化学科の有機化学の教授でした。この歴史的な繋がりに基づいて、本学は UCL との交流を積極的に進め、これまでに学術交流協定の締結並びに博士課程の学生派遣、そして学術記念として Choshu-London シンポジウムを開催してきました。今回初めて、このシンポジウムを UCL 化学科の Motherwell 名誉教授、Anderson 教授の協力により、ロンドンで開催しました。

UCL 化学科の正面玄関には、Williamson 教授夫妻が日本からの最初の留学生を受け入れたこと、彼ら留学生にさしのべた暖かい助力に対する安倍内閣総理大臣からの感謝状が、Williamson 教授の肖像画とともに飾られています。日本、UCL 双方がこの偉大な出来事に多大な敬意を表していることが感じられました。現在の本学化学系と UCL 化学科の強い結びつきは、長州ファイブの留学から 150 年を経て、この歴史的イベントのスピリットが 21 世紀にも脈々と生き続けていることを示しています。今回のシンポジウムは奇しくも Williamson 教授と同じ distinguished professorship を保持した２名の先生方のご尽力により開催され、シンポジウムの分野も Williamson 教授の専門分野である有機化学となりました。150 年を経てのこの交流はとても感慨深いものがありました。

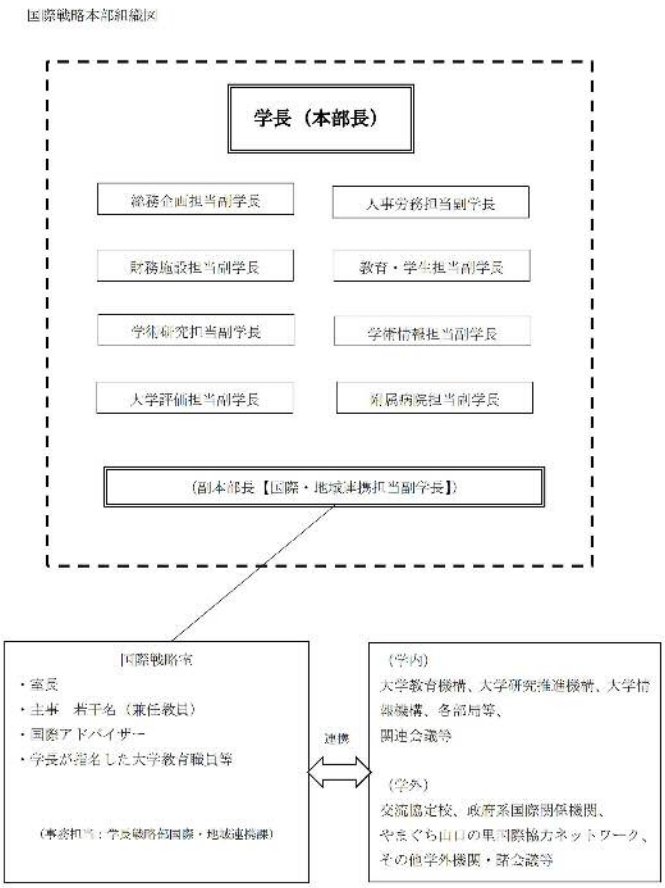
シンポジウムの前後に、UCL 化学科有機化学部門の先生方と、研究や相互交流に関して幅広い意見交換を行い、UCL の大学院学生たちとは研究に関してディスカッションを行いました。今回の訪問では、双方向の研究者交流や本学から UCL への留学、UCL から本学への留学の交流拡大が話題となり、それらを通じた協議から相互の信頼関係を高める有意義な時間を持つことができました。UCL は、山口大学が研究連携の強化と研究力アップを目指して選定した重点連携大学のひとつです。これからも、相互の留学やシンポジウムの開催を通じて、本学と UCL との交流をますます盛んにしていきます。

2. 国際戦略本部及び国際戦略室

(1) 国際戦略本部、国際戦略室の組織と役割

2008 年 4 月に学長を本部長とする国際戦略本部が設置され、国際化に関する大学としての企画立案体制が整備された。また、国際戦略本部の下に、学長特別補佐、教員及び職員を構成員とする国際戦略室(以下、「戦略室」)を置き、国際戦略の企画立案を推進することとされた。2010 年より副学長が増えたことに対応して、国際戦略本部の構成員も変更され、国際・社会連携担当学長特別補佐に代わり新設された副学長（国際・地域連携担当）が国際戦略副本部長、国際戦略室長となっている。さにに、国際戦略室の活動を支援するための事務組織として、総合企画部国際・社会連携チームが置かれていたが、2012 年から、学長戦略部国際・社会連携課に名称を変更し、より一層学長の意思を反映できる体制を整えている。なお、2013 年から、課名が、国際・地域連携課に変更になった。

国際戦略本部、国際戦略室の関係及び各構成員は、次の組織図のとおりである。



国際戦略本部、国際戦略室の業務は次のように定められている。

・国際戦略本部の業務

(1) 教育研究活動における国際的な活動に係る国際戦略に関すること。

(2) その他国際戦略に関する重要な施策に関すること。

・国際戦略室の業務

(1) 国立大学法人山口大学の国際連携に係る企画，立案及び実施に関すること。

(2) 国際交流に関する情報の収集，整理及び提供に関すること。

(3) 国際協力に関すること。

(4) 学術交流協定に基づく活動の推進に関すること。

(5) 海外に向けた大学の国際交流に係る情報の発信に関すること。

(6) その他国際戦略活動に係る重要事項に関すること。

3. 学術交流協定

(1) 2013 年度の学術交流協定の締結等

2013 年度は学術交流協定を 8 大学(大学間 2 大学、学部間 6 大学) と締結し、12 の大学・機関(大学間 10 大学・機関、学部間 2 大学・機関)と更新した。

その結果、2014 年 3 月末現在で、大学間では、14 ヶ国、53 大学・機関と学術交流協定を締結、学部間では、本学の 7 学部、2 研究科、附属病院が 20 ヶ国、46 件の学術交流協定を締結していることとなった。

【2013.7 本学教育学部と台湾・淡江大学文学院が部局間学術交流協定を締結】

(2)大学等間学術交流協定

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	ブラウィジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有 （理工学研究科）
	バンドン工科大学 (Institut Teknologi Bandung)	2012.05.25	有
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03	有
	ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)	2001.10.29	有
	コンケン大学 (Khon Kaen University)	2001.10.30	有
	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2001.10.31	有
	シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)	2001.11.01	有
	農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有

中国	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有 （工学部）
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	陽明大学 (National Yang Ming University)	2009.11.20	
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有
ベトナム	教育訓練省　国際教育開発局 (Vietnam International Education Development, Ministry of Education and Training)	2009.03.30	有 （相互協力に関する附属書）
	ダナン大学 (University of Danang)	2009.09.17	
	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
マレーシア	サラワク大学 (Universiti Malaysia Sarawak)	2012.03.29	
	マレーシア工科大学 (Universiti Teknologi Malaysia)	2012.09.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有 （教育学部）
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	有 （工学部）
	セントラル･ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	有
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学 (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
エジプト	カイロ大学 (Cairo University)	2012.02.12	
アメリカ合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
オーストラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有 （工学部）
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有

(3)部局等間学術交流協定一覧

国・地域名	締結部局	機関名（英語表記）	締結 年月日	学生交流 覚書
韓国	教育学部	釜山大学校　師範大学 (College of Education, Pusan National University)	2010.06.21	
	理学部	韓国天文研究院　電波天文研究部 (Radio Astronomy Div., Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	忠北大学校　工科大学 (College of Engineering, Chungbuk National University)	2001.10.10	
		全北大学校　工科大学 (College of Engineering, Chonbuk National University)	2004.03.19	
		又松大学校　鉄道大学 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
	農学部	忠南大学校　農業生命科学大学 (College of Agriculture and Life Science, Chungnam National University)	2000.05.18	
タイ	医学部	マヒドン大学　看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校　生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学　技術・地域開発学部 (Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学　農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学　農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
中国	教育学部	復旦大学　情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	遼寧大学　経済学院 (School of Economics, Liaoning University)	1996.10.17	
		中国人民大学　経済学院 School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
	医学部	吉林大学　中日聯誼病院 (China-Japan Union Hospital of Jilin University)	2009.09.25	
		大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学　環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学　関連工科系学院 (The Graduate Schools on Science and Engineering, Xihua University)	2007.02.05	有
	農学部	新彊畜牧科学院 (Xinjiang Academy of Animal Science)	1991.09.02	
		東北師範大学　都市・環境科学学院 (School of Urban and Environmental Science, Northeast Normal University)	2010.04.15	
	東アジア 研究科	復旦大学　日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	

台湾	経済学部	正修科技大学　管理学部・人文社会学部 (College of Management; College of Humanities and Social Science, Cheng Shiu University)	2010.01.14	
		国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学　医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	教育学部	淡江大学　文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
ネパール	農学部	トリブバン大学　農畜産学部 (Institute of Agriculture and Animal Science, Tribhuvan University)	2010.01.27	
バングラデシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー食物･放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガール大学　生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	
ベトナム	理学部	ハノイ理工科大学　応用数学・情報科学部 (Faculty of Applied Mathematics and Informatics, Hanoi University of Science and Technology)	2010.11.20	有
	共同獣医学部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
スリランカ	農学部	サバラガムア大学　農学部 (Faculty of Agricultural Sciences, Sabaragamuwa University of Sri Lanka)	2014.01.23	有
ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学　言語学部 (Faculty of Philology, Ivan Franko National University of L'viv)	2004.11.16	有
イギリス	経済学部	ヨーク大学　経済学部及び関連領域学部 (Dept. of Economics and Related Studies, The University of York)	1993.01.20	
	工学部	ブリストル大学　工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ハンガリー	農学部	ウエストハンガリー大学　農業食品科学部 (Faculty of Agricultural and Food Sciences, University of West Hungary)	2011.11.09	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
スペイン	工学部	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2013.09.11	有
ポルトガル	工学部	新リスボン大学　理工学部 (Faculty of Science and Technology, Universidade Nova de Lisboa)	2013.08.08	有
フランス	工学部	ボルドー大学 (Universite de Bordeaux)	2014.03.11	有
アメリカ合衆国	経済学部	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2009.01.09	
	医学部	テキサス大学　ヒューストン健康科学センター看護学部 (Health Science Center at Houston, University of Texas)	1999.03.29	
		バージニア大学　看護学部 (School of Nursing, University of Virginia)	2000.11.06	
ブラジル	理学部	パウリスタ総合大学 (Paulista State University)	2001.10.31	有
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学　理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
オーストラリア	教育学部	キャンベラ大学 (University of Canberra)	1994.03.15	
ニュージーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	

4. 海外拠点

最近では多くの日本の大学が、留学生募集や、海外の大学との共同研究拠点、共同授業提供などを目的として、海外に事務所を開設するようになった。山口大学でも交流協定校との連携協力によるサテライトオフィスを、2004 年 10 月に中国の北京師範大学、2005 年 3 月に山東大学に設置して来た。主な活動は留学情報の提供である。

2009 年度には、海外外拠点の実質化を目指すと共に、拠点事務所を増やすとの方針で、先の 2 大学にインドネシア、台湾の 3 大学を加えた。

さらに、2011 年度には、中国における渡日前入試の実施のために、北京の首都師範大学内に海外拠点を設置し、以下のとおり計 6 拠点の体制とした。

①「山口大学　北京国際連携オフィス」
　住所：中国 100875 北京市新街口外大街 19 号北京師範大学内

②「山口大学 北京国際連携オフィス」
　住所：中国 100048 北京市海淀区西三環北路 83 号首都師範大学内

③「山口大学　山東国際連携オフィス」
　住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号山東大学内

④「山口大学　バリ国際連携オフィス」
　住所：Udayana University Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia　【http://yamaguchi.unud.ac.id/home】

⑤「山口大学　ジョグジャカルタ国際連携オフィス」
　住所：Gadjah Mada University Jl. Fauna No.2 Karangmalang Yogyakarta, 55281 Indonesia　【http://www.yuico-indonesia.com/】

⑥「山口大学　台湾国際連携オフィス 」
　住所：大葉大学内台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
　【http://yuicot.dyu.edu.tw/】

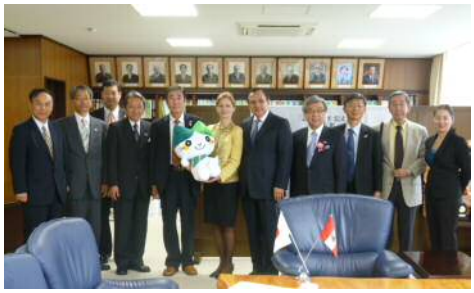
山東国際連携オフィスのプレート

ジョグジャカルタ国際連携オフィス作成の
山口大学紹介のリーフレット

5. 本部への海外からの来訪者

(1) 本部への海外からの来訪者一覧

日時	訪問者	国・地域名
2013.4.4	ウダヤナ大学 副学長 Mr. I Gede Putu Wirawan	インドネシア
2013.4.11	Plant & Food Reseach 研究員 Mr. Daryl Rowan	ニュージーランド
2013.4.19	ラジャマンガラ工科大学 学長 Mr. Sint Punpinij	タイ
2013.5.27	駐日ペルー共和国特命全権大使 Mr.Elard ESCALA	ペルー
2013.6.13	忠北大学校 工学部長 Mr. Jang Guneik	韓国
2013.7.17	静宜大学 管理学院院長 詹秋貴　他教職員及び学生	台湾
2013.7.23	淡江大学 文学院院長 邱炯友	台湾
2013.8.20	日中韓サマープログラム教職員 （群山大学、江蘇大学、大連理工大学、重慶理工大学）	韓国、中国
2013.11.5	ビンズン省人民委員会委員長 Mr. Le Thanh Cung BECAMEX IDC CORP.会長兼社長 Mr. Nguyen Van Hung	ベトナム
2013.11.21	マレーシア工科大学 職員及び学生	マレーシア
2013.12.5	山東大学職員（SD 研修）	中国
2013.12.17	ウダヤナ大学 現学長 Mr. Ketut Suastika 前学長 Mr. I Made Bakta	インドネシア
2014.2.12	駐広島韓国総領事館 総領事 辛亨根	韓国
2014.2.14	山口大学同窓生 Mr. Mosta Gausul Hoque	バングラデシュ



駐日ペルー共和国特命全権大使 学長表敬訪問

静宜大学 管理学院院長他教職員及び学生 訪問

マレーシア工科大学 職員及び学生 訪問

ウダヤナ大学　学長表敬訪問

6. 本学学長等の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2013.5 月	ウダヤナ大学名誉教授授与式出席 ガジャマダ大学訪問	インドネシア
2013.5 月	第 1 回希平会参加	中国
2013.7 月	ウィリアムソン教授ご夫妻顕彰碑除幕式 長州ファイブ来英 150 周年記念式典出席 シェフィールド大学訪問	イギリス
2013.8 月	第 2 回インドネシア林業研究国際会議基調講演	インドネシア
2013.11 月	山口大学－山東大学学術交流 30 周年記念式典出席	中国
2014.3 月	大連外国語大学学術交流協定締結記念式典出席	中国

7. その他

(1)国際協力活動推進プラットフォーム

国際協力活動に関心を有する山口大学教職員の有志が、地域を含めた国際協力活動の推進役としての役割を担う目的で、2007 年 11 月に「国際協力活動推進プラットフォーム」を発足している。発足以来、国際協力関係有識者による講演、意見交換会の開催、国際協力事業説明会の開催、会員の海外派遣(各種調査、協力活動)、研究者の招聘、会員の国際協力関係の研修参加等を行っている。

国際協力活動推進プラットフォームの 2013 年度の主な活動は以下のとおりである。

・アジア地域における国際教育協力事業－カンボジア王国 Siem Reap 州教員研修支援のモデル構築に関する研究－
・カンボジア運動会プロジェクト
・ラオス国メコン川中流域の気象水分及び河岸浸食に関する研究
・インドシナ地域における拠点・支援大学の教育実態調査と相互交流

(2)青年海外協力隊帰国報告会の開催

2014 年 1 月に、2011 年度に青年海外協力隊員として海外に派遣された、本学卒業生による帰国報告会を開催した。本学においては、毎年コンスタントに卒業生が協力隊員として海外で、国際協力・貢献活動に従事している。　帰国した者は以下のとおり。

氏名	派遣先	職種	卒業学部（卒業年度）
森山　朋子	グアテマラ	小学校教育	教育学部（H22）

(3)国際会議、国際シンポジウムの開催

山口大学の教員・研究者が海外の大学を訪問し、また海外で開催される各種学会・シンポジウム等に参加するばかりでなく、海外の研究者、要人が参加する国際シンポジウム等を、山口大学が中心となって大学や周辺地域において開催する機会が年々増えてきている。2013 年度においては次表のとおり講演会を開催した。

国際シンポジウム等開催状況（2013 年度）

	名称	期日
1	創基 200 周年記念「駐日ペルー共和国特命全権大使による講演会」を開催	2013/5/27（月）

(4)政府開発援助（ODA）との連携

山口大学では、「国際協力銀行」（ODA 担当部門は、2008 年 10 月に「国際協力機構（JICA）」と統合した。）との間で、2004 年 5 月 7 日に「国際協力銀行と山口大学との海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結し、また教育学部、経済学部が JICA（中国国際センター）との間で 2006 年 3 月 27 日に「JICA 中国国際センターと山口大学との連携協力覚書」を締結している。（※これらは「独立行政法人国際協力機構と山口大学との間の連携協定」に 1 本化し、本学学長と JICA 理事長の間で 2010 年 6 月 1 日に署名・締結された。）

こうした ODA 実施機関との連携も踏まえ、山口大学は現在まで以下のとおり ODA 事業の実施に協力してきており、2013 年度における実績は以下のとおりである。

・無償資金協力による留学生受入(JDS プログラム)： 2002 年以降毎年 JDS プログラムによる留学生を受け入れており、2013 年度は、バングラデシュから 3 名、ラオスから 2 名の留学生を受け入れた。現在までにバングラデシュから 29 名、インドネシアから 3 名、フィリピン 1 名、ラオス 2 名の計 35 名受入れている。(在学生を含む。)

・技術協力による留学生受入：未来への懸け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACE プロジェクト）により、アフガニスタンからの留学生受入れを、2012 年度から開始し、2013 年度は 1 名の留学生を受け入れた。現在までの総受入れ人数は 2 名である。

・研修員受入：、工学部において短期研修員(東ティモール、3 名)。

経済学部において国別研修による研修員（バングラデシュ、4 名）

・JICA 協力授業：経済学部において「国際協力論」を開講。JICA より職員、専門家経験者、協力隊帰国隊員の講師派遣。本授業は 2006 年度から開講している。

・青年海外協力隊：学生を対象とする特別募集説明会の開催、協力隊募集ポスターの掲示。自主活動ルームコーディネーター、国際戦略室教員による希望学生指導。帰国者による報告会の開催（2014.1.22）。

・ODA 資金による、中小企業の海外展開支援（多機能フィルター(株)のインドネシアでの展開）

(5) ODA 事業との連携実績

①留学生受け入れ

プロジェクト	受入学部・研究科	対象国・地域
○人材育成支援無償（JDS）による留学生の受入	経済学研究科	バングラデシュ
○有償資金協力（円借款）による留学生の受入		
・高等教育基金借款事業（III）	工学部	マレーシア
・国立イスラム大学	医学系研究科	インドネシア
・高等人材開発事業（III)	理工学研究科	インドネシア

②技術協力プロジェクト

プロジェクト	形態	分野	対象国・地域
カンボジア日本人材開発センター（H16 年 4 月 1 日～H21 年 3 月 31 日）	技術協力	民間セクター開発	カンボジア
ラオス日本人材開発センター(2)ビジネス分野活動等支援（第 1 次）(H20 年 12 月～H21 年 9 月)	技術協力	民間セクター開発	ラオス
天然ゴム産業の振興と金融機能に係る提案型調査（H19 年度）	円借款	民間セクター開発	カンボジア
貴州省における人材育成プログラム開発に係る提案型調査	円借款	人材育成	中国
東ティモール大学工学部能力向上プロジェクトへの協力	技術協力	人材育成	東ティモール

③専門家派遣

プロジェクト	形態	派遣期間	対象国・地域
個別専門家（初中等教育計画）	長期	2005 年 1 月～2007 年 1 月	フィリピン
理数科教員養成（生物教育）	短期	2005 年 8 月～9 月	ラオス
経済法（企業関連法）整備支援終了時評価調査	短期	2007 年 11 月～12 月	中国
法制度整備支援基礎情報収集・確認調査	短期	2009 年 1 月～2 月	ラオス
民間セクター振興プログラム	短期	2008 年 3 月	カンボジア
持続可能な地域観光振興	短期	2008 年 4 月～5 月	ドミニカ
平成 18 年度　円借款事業事後評価業務	短期		中国
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2010 年 10 月 2011 年 3 月	東ティモール
タンザニア国灌漑農業技術普及支援体制強化計画運営指導調査	短期	2011 年 2 月	タンザニア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2011 年 11 月 2012 年 3 月	東ティモール
マレーシア日本国際工科院技術経営学部のカリキュラム設定、教員募集についての協議に係る調査	短期	2012 年 1 月	マレーシア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2012 年 8 月 2013 年 3 月	東ティモール
ミャンマー法整備支援詳細計画策定調査	短期	2012 年 12 月	ミャンマー

東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2013年8月 2013年9月 2013年12月 2014年1月 2014年3月	東ティモール
タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査	短期	2013年10月	タンザニア

④研修員受入

コース名	形態	受入期間	国・地域名
花キ園芸	個別	1996年3月～12月	ケニア
地震観測システム	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
地震解析	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
環境工学	個別	1997年3月～7	インドネシア
地震観測システム	個別	1998年3月～5月	トルコ
獣医学（小型動物内視鏡）	日系個別	1998年4月～1999年4月	ブラジル
消化器内視鏡	個別	1999年1月～2月	アルゼンチン
節水灌漑	個別	1999年3月～6月	中国
看護学	日系個別	1999年4月～200年3月	ブラジル
カロチン抽出分離	個別	1999年8月～10月	マレーシア/2名
土地水質源管理学	プロジェクト	形態	分野
土地資源管理	長期研修	2001年9月	ベトナム

繁殖ホルモン測定技術の応用	個別	2004 年 8 月～9 月	ベトナム
現職教員研修	集団	2005 年 10 月～11 月	フィリピン
高品質肉牛の管理と繁殖	日系個別	2009 年 5 月～2010 年 2 月	ブラジル
稲研究人材育成	長期研修	2009 年 9 月～2011 年 8 月	タンザニア
参加型農村開発	短期	2009 年 10 月	バングラデシュ/2 名
高品質勝久野効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的なビジョン	日系個別	2011 年 5 月～2012 年 2 月	ボリビア
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2011 年 11 月	東ティモール
高品質家畜の効率的・効果的な生産、繁殖、衛星管理のための獣医・畜産学的な新ビジョン	日系個別	2012 年 5 月～2013 年 2 月	ペルー
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2012 年 10 月	東ティモール
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2013 年 7 月～8 月 2014 年 2 月	東ティモール
バングラデシュ地方行政能力強化研修	国別	2013 年 9 月	バングラデシュ

⑤ JICA 協力授業

・国際協力論　JICA の歩みと役割他（各年 3～5 コマ）経済学部

・国際協力概論　開発途上国の現状と課題、有償資金協力の仕組みと課題、有償資金協力の事例紹介（各年 2 コマ）工学部

(6) 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、十分なデータの収集、研究データの交換による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり、毎年多くの教員、研究者が海外に派遣され、また山口大学でも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。国際研究・教育ネットワークを通して、共同研究、シンポジウムの開催、授業の相互提供といった活動が行われている。

2013 年度には延べ 993 人の教員が海外に派遣され、合計 60 人の海外からの研究者を受け入れた。

(7) 職員の研修

①山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学教育研究後援財団の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を 1 週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、外国語能力の向上に努めている。

・2005 年度：2 名（米国・ハワイ大学、英国・シェフィールド大学）
・2006 年度：2 名（カナダ・リジャイナ大学、ドイツ・エアランゲン大学）
・2007 年度：2 名（米国・オクラホマ大学、豪州・ニューカッスル大学）
・2008 年度：2 名（中国・山東大学及び香港中文大学）
・2009 年度：2 名（中国・山東大学）
・2010 年度：4 名（中国・山東大学、台湾・大葉大学外、インドネシア・ウダヤナ大学）
・2011 年度：3 名（中国・山東大学、インドネシア・ガジャマダ大学）
・2012 年度：4 名（中国・山東大学、台湾・大葉大学、インドネシア・ガジャマダ大学）
・2013 年度：13 名（中国・山東大学、台湾・大葉大学、インドネシア・ウダヤナ大学、ベトナム・ハノイ農業大学、カントー大学、タイ・カセサート大学、ラジャマンガラ工科大学）

②山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活、教育、研究の支援を担当、または部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指して、ネイティブスピーカー講師による英語能力向上のための会話訓練を行い、外国人対応の業務遂行に必要とされるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした英語能力向上研修を、2010 年度から実施している。2013 年度は 25 名が本研修に参加した。

(8) 学内の国際化推進体制の整備

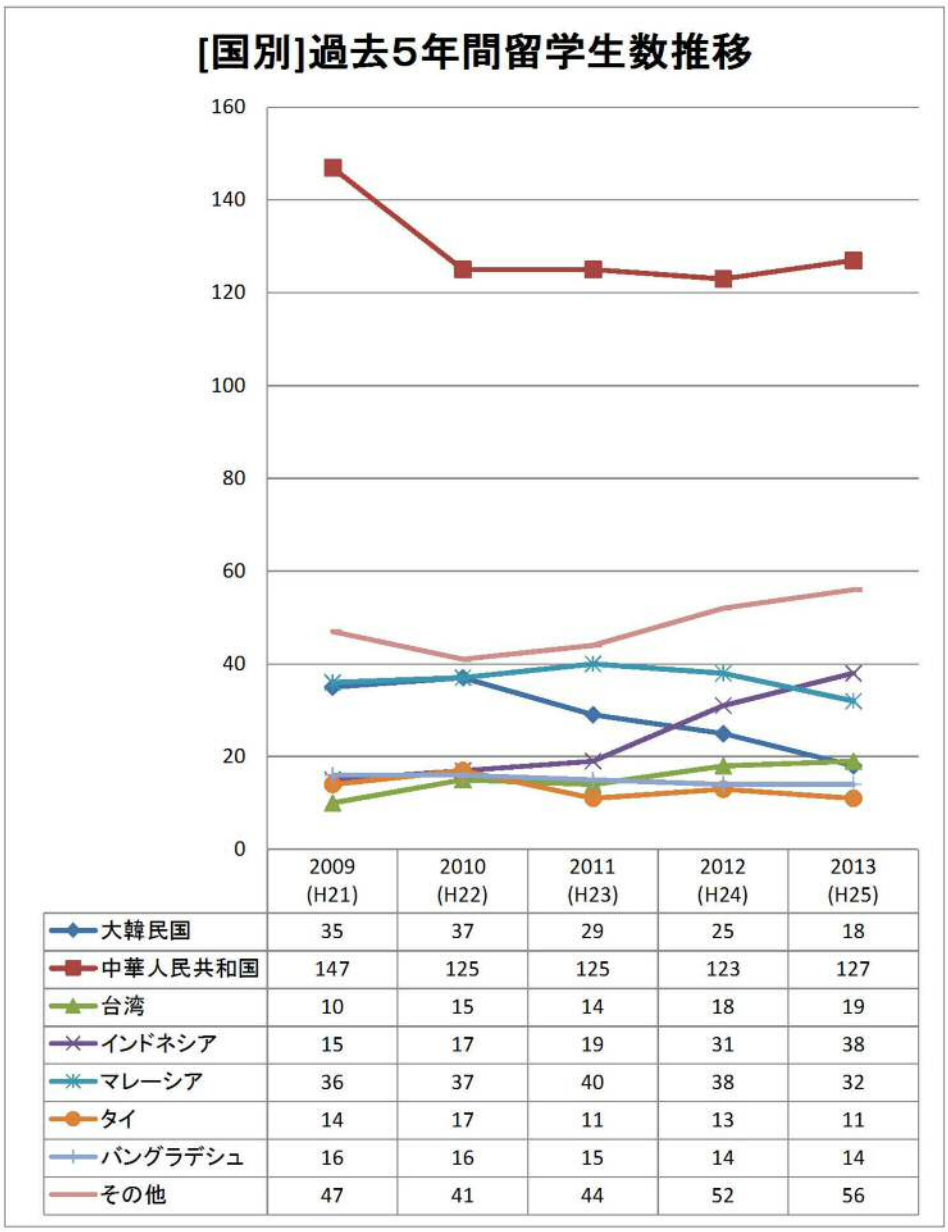
国際化を推進するため、諸手続（外国人留学生・研究者の渡日後の各種生活支援）のワンストップサービスを提供する「外国人留学生・外国人研究者サポートオフィス」を、吉田地区において 2010 年 12 月から試行した。2011 年 6 月からは、アドバイザー2 名（吉田地区 1 名、宇部地区 1 名）を配置し、サポートオフィスを本格稼働し、外国人留学生・研究者の渡日・入学、入学後の各種支援体制を構築した。

(9) 留学生の促進策

留学生への経済的支援を図るため、山口大学教育研究後援財団の支援を受けて外国人留学生奨学事業の創設を行った。

また、北京国際連携オフィスを活用しての渡日前入試（理工学研究科）、山東大学、貴州大学における渡日前入試（経済学研究科）も実施した。

（参考）出身国・地域別留学生数の推移



	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)
大韓民国	35	37	29	25	18
中華人民共和国	147	125	125	123	127
台湾	10	15	14	18	19
インドネシア	15	17	19	31	38
マレーシア	36	37	40	38	32
タイ	14	17	11	13	11
バングラデシュ	16	16	15	14	14
その他	47	41	44	52	56

（参考）学術交流協定に基づく交換留学生数

学術交流協定に基づく交換留学生数（2014.3.31現在）

エリア区分	国・地域	協定校	協定分類	協定で定める交換留学生数の上限（1年間）		交換留学に係る特記事項	交換留学生 H21 2009 派遣	H21 2009 受入	H22 2010 派遣	H22 2010 受入	H23 2011 派遣	H23 2011 受入	H24 2012 派遣	H24 2012 受入	H25 2013 派遣	H25 2013 受入	合計
アジア	インドネシア	ブラビジャヤ大学	大学間	5		ダブルディグリーの記載も有り		2				2					4
		バンドン工科大学	大学間	5		通常の附属書（5名） 理工学－バンドン工科大学建築・計画研究院学部ダブルディグリー附属書も有り											0
	韓国	仁荷大学校	大学間	15			1	15		14	1	9		7	1	4	52
		公州大学校	大学間	5				2		2	1	2				1	8
		韓国外国語大学校	大学間	5				4		4	1	3	2	3	1	3	21
		慶尚大学校	大学間	5								2		2			4
		ソウル市立大学校	大学間	3													0
		昌原大学校	大学間	8	*					3		4		1			8
		ソウル大学校	大学間	2													0
		亜州大学校	大学間	5								1		1		2	4
		梨花女子大学校	大学間	5							1						1
		群山大学校	大学間	5		群山大学校－理工学研究科間のダブルディグリー協定も有		2		1				1		1	5
		釜山大学校　師範学部	教育学部	2		協定書内に交換留学生についての記載有り											0
	タイ	カセサート大学	大学間	5				(1)									0
		ソンクラ王子大学	大学間	2										1			1
		コンケン大学	大学間	5				3		5		4		3		3	18
		チェンマイ大学	大学間	5													0
		シーナカリンウィロート大学	大学間	5				5		5		4		3		3	20
		キングモンクット工科大学トンブリ生物資源工学部	農学部	2				1		1		1		1			4
		メージョー大学　農学生産学部	農学部	2													0
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部	農学部	5													0
	中国	山東大学	大学間	8			2	4		4		3	1	5		5	24
		北京師範大学	大学間	5			2	1		1		1	2	2	2	1	12
		武漢理工大学	大学間	5				5		5		4		3		2	19
		貴州大学	大学間	4				4		4		3		3		3	17
		重慶理工大学	大学間	5		重慶理工大学工学部－山口大学工学部間											0
		首都師範大学	大学間	5										2		2	4
		江蘇大学	大学間	5													0
		大連外国語大学	大学間	3													0
		復旦大学（情報科学工程学院／日本研究センター）	教育・東アジア	2		※教育学部と情報科学工程学院のみ 東アジアと日本研究センターの附属書は2年度に廃止済											0
		中国人民大学経済学院	経済学部	4													0
		西華大学　関連工科系学院	工学部	3				2				1		2		2	7
	台湾	国立中興大学	大学間	3			1	1		1	2	2	1	4	1	2	15
		東海大学	大学間	5				2		2		3		2			9
		静宜大学	大学間	5				2		2		4		4		3	15
		逢甲大学	大学間	5								3	1				4
		大葉大学	大学間	5				3		4				4		3	14
		開南大学	大学間	5												2	2
		国立高雄餐旅大学	経済学部	5										3		5	8
		国立台湾大学　医学院	医学部	10		協定書内に交換留学生についての記載有り											0
		淡江大学　文学院	教育学部	2													0
	ベトナム	ベトナム国立農業大学	大学間	5				(1)				1					1
		ハノイ理工科大学　応用数学・情報科学部	理学部	5							1						1
	マレーシア	マレーシア工科大学	大学間	5													0
	ラオス	ラオス国立大学	大学間	5													0
	スリランカ	サバラガムア大学　農学部	農学部	5													0
ヨーロッパ	イギリス	シェフィールド大学	大学間	2		シェフィールド大学－山口大学総合学部											0
		UCL	大学間	1		UCL工学部－山口大学工学部	1				2						3
		セントラル・ランカシャー大学	大学間	10	**	協定書内に交換留学生についての記載有り	4	2		2	3	4	2	5	4	4	30
		ヨーク大学　経済学部及び関連領域学部	経済学部	4													0
	ウクライナ	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学	教育学部	2								1	1				2
	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルグ大学	大学間	4			4	1	6	1	4	1	2	1	4		24
	フランス	ボルドー大学	工学部	2													0
	スペイン	サラゴサ大学	工学部	5													0
	ポルトガル	新リスボン大学　理工学部	工学部	5													0
北米	アメリカ合衆国	オクラホマ大学	大学間	10	***		4	1	4	1	4	4		1		1	20
	カナダ	リジャイナ大学	大学間	4						1			1	1	1		4
南米	ブラジル	パウリスタ総合大学	理学部	2													0
オセアニア	オーストラリア	ニューカッスル大学	大学間	3		ニューカッスル大学工学部－山口大学工学部											0
		シドニー工科大学	大学間	10	****								2		1	1	4
		キャンベラ大学	教育学部	2		学生交流協定書				1			1				2
合　計				286			19	62	10	64	20	67	16	65	15	53	391

* うち3名は山口大学(工)↔昌原大学海洋プラント人材開発センター(HOPE)の交換留学生数
** セントラル・ランカシャー大学: 2012年大学間協定に格上げ、交換留学生数を10名迄とした（毎年交換数を相談）　※部局間協定時は教(3)+工(3)の計6名
*** オクラホマ大学は2011.4.1の更新で全学の附属書へ変更となった（全学部で10名）　※部局間時は工(3)+(2)+医(5)+経(2)+教(2)の計14名
**** シドニー工科大学：協定書内に人数についての記載有り。（1年につき10セメスターの交換（半期留学の場合は10名、1年留学の場合は5名）を可能とする。
また、受入・派遣の人数に不均衡が発生した場合、UTS学生1人受入につきYU学生4名をショートプログラムに派遣できる。
（ ）はジェネシスプログラムによる受入数（合計には反映されていません）

第 2 章　2013 年度の留学生部門の活動

1. 留学生交流拠点整備事業を推進

山口大学は、文部科学省平成 24 年度(2012 年度)「留学生交流拠点整備事業」の拠点校に採択されました。この事業は外国人留学生の受入れの促進を図るため、大学・地方自治体・地元経済団体・NPO・ボランティア団体等が連携して、外国人留学生と日本人学生・地域の住民・企業等との交流を深めながら、地域ぐるみで外国人留学生の生活や就職を支援していこうとするものです。この事業を推進するため、山口大学は特に 2 つの項目に力をいれています。一点目は就職活動支援です。昨年で第 6 回目となる「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」、第 4 回目となる「留学生のための日本企業文化理解講座」に加え、留学生と山口県内企業とが交流する機会を持つために西京銀行と共催で「留学生と企業経営者との交流会」を新たに始めました。

二点目は留学生の地域交流です。KRY 山口放送とタイアップし、ラジオ番組内で留学生から地域へ発信するコーナーを立ち上げました。

また、昨年 7 月 7 日、映画監督の佐々部清氏、映画女優の水谷妃里氏、トクヤマコリアのイ・ムンソブ氏及びエイベックス K-POP 担当部の竹田洋一氏らをパネリストに迎え、日韓関係に民間文化交流が果たすべき方向性を探ることを目的とした映画上映会＆シンポジウム「『チルソクの夏』から考える日韓友好再構築」を開催しました。来場者数は 300 名を超え、立ち見になるほどの盛況ぶりでした。

今後は留学生のインターンシップシステムの構築や、留学生目線のガイドブックの作成などを実施していく予定です。

2.山口大学・中国山東大学・韓国公州大学校３大学学生交流を開催

2013 年９月 10 日（火）～９月 17 日（火）の８日間、吉田キャンパスにおいて、「山口大学・中国山東大学・韓国公州大学校３大学学生交流 2013」を開催し、山東大学及び公州大学校からそれぞれ学生５名と引率者１名、本学から学生 18 名と教員１名の併せて約 30 名が参加しました。

このプログラムは、学術交流協定を締結している３大学の学生が交流活動を通じて、お互いの価値観や考え方について意見交換することで、東アジアの文化理解、交流促進、平和理解への認識を高めることを目的に３大学持ち回りで毎年開催しているものです。

今回のプログラムでは、各国の家庭料理を作って食する三国料理実習や国立山口徳地青少年自然の家において１泊２日の集団宿泊などを実施し、学生たちは異文化理解やトライアングル的な友情を深めました。

また、「人間関係」というテーマでディスカッションを行い活発な意見交換を行いました。

今後、それぞれの国の歴史や文化に対する理解が深まり、今まで以上に活発な交流が期待されます。

第 3 章　2013 年度の学術研究部門の国際交流活動

1. 独立行政法人日本学術振興会助成

(1) 二国間交流事業　「インドネシア DGHE との共同研究」

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）と学術の国際協力に関する合意に基づき行う事業。個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、日本の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費の支援を行う。

【研究課題】希少野生トラの精液凍結保存法の開発

【期間】2011 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日

【山口大学実施部局】共同獣医学部

【山口大学担当教員】音井威重（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】ボゴール農業大学（インドネシア）

【相手方参加者】Karja Ni Wayan Kurniani（ボゴール農業大学・講師）、Mohamad Agus Setiadi（ボゴール農業大学・教授）、Mokhamad Fahrudin（ボゴール農業大学・講師）、Ligaya ITA Tumbelaka（ボゴール農業大学・講師）、Yudi（ボゴール農業大学・講師）、Cut Yasmin（ボゴール農業大学・大学院 2 年生）、Zaenal Muttaqen（ボゴール農業大学・大学院 2 年生）

【事業概要】

生息数 400 頭以下と目されるスマトラトラの保護のため、トラ精液の保存および野生ネコ科動物にも適応できる精液の凍結保存技術を開発する。2013 年度は、ボゴール農業大学から大学院生 2 名を含む 4 名を招へいし、精液の凍結保存方法および生存性の評価について共同研究を行った。さらに、日本側から２名がボゴール農業大学に赴き、タマンサファリで保護されているスマトラトラから精液を採取し、精子凍結保存技術の開発、凍結保存精子の受精能力評価方法の開発及び人工授精実証実験を行った。

交流の詳細は以下のとおり。

氏名・所属	期　　間 （現地到着日～現地出発日）	主たる訪問先
音井　威重・山口大学	2013 年 10 月 15 日～19 日	ボゴール農業大学
菊地　和弘・（独）農業生物資源研究所	2013 年 10 月 15 日～19 日	ボゴール農業大学
Karja Ni Wayan Kurniani・ボゴール農業大学	2013 年 7 月 1 日～5 日	山口大学
Ligaya ITA Tumbelaka・ボゴール農業大学	2013 年 7 月 1 日～5 日	山口大学
Cut Yasmin・ボゴール農業大学	2013 年 7 月 1 日～8 月 5 日	山口大学
Zaenal Muttaqen・ボゴール農業大学	2013 年 7 月 1 日～8 月 5 日	山口大学

【得られた成果】

トラ精液を凍結保存するために、当研究室で開発したネコの精液凍結保存方法を応用し、トラ精液に最適の凍結保存方法を開発した。特に挙げられる成果として、人工授精前の凍結融解精子の生存性を評価する方法として、トラと染色体数が同数のネコ卵母細胞を活用し、体外受精により精子の受精能を評価することで、より確実な凍結精液評価方法を確立できた。今回開発した精子評価技術はトラ以外のネコ科野生動物にも精液評価に適応できることから、種の保存への貢献も期待できる。

(2) 外国人招へい研究者（短期）

独立行政法人日本学術振興会が実施する、学術の国際協力を推進するため、外国人研究者を日本に招へいする事業。中堅以上（教授級）の外国人研究者を短期間招へいし、日本の研究者との討議・意見交換・講演等を通じて関係分野の研究の発展に寄与することを目的とする。

【研究課題】バイオナノ粒子の高効率分離を目指したモノリスクロマトグラフィープロセス

【期間】2013 年 10 月 14 日～12 月 12 日

【山口大学実施部局】工学部

【山口大学担当教員】山本修一（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】COBIK（スロベニア）

【相手方参加者】Ales Podgornik（室長補佐）

【事業概要】

バイオナノ粒子の高効率分離を目指したモノリスクロマトグラフィープロセスについて、有用な知見を持つ Dr. Ales Podgornik を招へいし、様々な議論や実験を行うことにより、国内の同分野における研究の活性化が期待できる。

【得られた成果】

研究室における議論や実験を始め、様々な研究施設を訪問し、研究討議を行ったほか、フォーラムやシンポジウムにて発表を行ったり座長をつとめるなど、多くの意見交換を行った。また、この事業は、2014,2015 年度 JSPS 二国間国際共同研究に採択され、今後長期に渡り共同研究を進めて行くことになった。

(3)外国人研究者再招へい事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、外国人特別研究員事業等に採用された外国人研究者に対し、再度来日して日本人研究者との研究協力関係を形成・維持・強化する機会を提供する事業。採用時の受入研究機関等の訪問、共同研究等の実施により、日本と海外にいる研究者とのネットワークの強化を目標とする。

①【研究課題】双曲型方程式の初期値問題

【期間】2013 年 8 月 27 日～9 月 19 日

【山口大学実施部局】大学院理工学研究科

【山口大学担当教員】廣澤史彦（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】フライベルグ工科大学（ドイツ）

【相手方参加者】Michael Reissig (教授)

【事業概要】

期間中に受入研究者や、研究協力者、およびそれらの所属する国内複数の大学関係者と「双曲型方程式の初期値問題」に関する研究交流を実施する。そのうち、セミナーや講演会を広島大学、大阪大学、中央大学でそれぞれ実施する。

【得られた成果】

メールによるやり取りや学会参加時の短期間だけでは難しい、内容の濃い研究打ち合わせを行い、過去の招へい事業の際に行った研究の総括を行うことができた。さらに、相手方参加者の大学院生の短期受入の実現に向けて協議を行うなど、本事業の目的である、相手方参加者と受入・協力研究者間のネットワークの強化と新たな構築が計画通り達成された。

②【研究課題】Bioethanol production with thermotolerant microbes

【期間】2013 年 8 月 11 日～9 月 24 日

【山口大学実施部局】大学院医学系研究科(農学)

【山口大学担当教員】山田　守（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】Jahangirnagar University（バングラデシュ）

【相手方参加者】Ali Azam Talukder (准教授)

【事業概要】

バングラデシュでのエタノール高温発酵生産を目指して、バングラデシュのサンプルからエタノール生産性耐熱性微生物を分離し、糖資化性等の解析を行う。山口大学では、さらに高温でのエタノール生産性を検討する。また、相手方参加者と繋がりのある３大学を訪問し、研究に関する情報交換を行うとともに、共同研究の可能性について検討を行う。

【得られた成果】

バングラデシュの種々のサンプルからエタノール生産性微生物を 27 株分離し、糖資化性等の解析を行った。山口大学では、高温におけるそれらの株のエタノール生産性を検討し、42 度でエタノール生産性の比較的高い株を得た。また、国際的な研究教育のネットワーク形成や日本とバングラデシュの今後の友好関係の構築が期待される。

(4) 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】ベトナム産トカゲ類の寄生虫分類学の基盤構築ならびに寄生虫相多様性の形成因子の解明

【期間】2012 年度～2014 年度

【山口大学実施部局】共同獣医学部

【山口大学担当教員】佐藤宏（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】ベトナム科学技術アカデミー／生態学・生物資源研究所（ベトナム）

【相手方参加者】TRAN, Binh Thi (研究員)

【事業概要】

ベトナムの爬虫類・両生類の生物多様性は世界的に注目されるほど豊富で、最近でも新種記載が続いている。これらを宿主とする寄生虫の種類や分布についてはほとんど未解明である。TRAN 氏はベトナム各地で集めたトカゲについて、その寄生虫相を明らかにする研究に取り組んでいる。2013 年度は TRAN 氏を 64 日間（平成 25 年 6 月 4 日～8 月 6 日）受入れ、また、佐藤教授が 9 日間（2014 年 2 月 7 日～2 月 15 日）ベトナムを訪問し研究指導を行った。

【得られた成果】

集めたトカゲから様々な寄生虫が分離された。現在、特に、腸管寄生の Cosmocercoides sp. あるいは Meteterakis spp.について光学顕微鏡および走査電子顕微鏡レベルでの形態学的特徴の確認と分子系統学的解析を進め、新たな生物種としての記載を目指して特徴づけを進めている。

2. 山口大学／財団法人山口大学教育研究後援財団助成

(1) 中国短期派遣研究者プログラム

中国国内の大学に山口大学の研究者を短期間派遣することにより、中国内の大学との学術交流の促進、山口大学の学術交流の発展を図ることを目的とした事業。

①【研究課題】日中における情報公開制度に関する比較法的研究

【期間】2013 年 8 月 29 日～9 月 11 日

【山口大学実施部局】経済学部

【山口大学担当教員】石龍潭（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】山東大学（中国）、人民大学（中国）

【事業概要と得られた成果】

中国における情報公開制度の整備状況及び最新動向について、資料収集を行った。その中で中国の裁判で導入された中国版ツイッターを用いた情報公開など、中国法が日本の情報公開制度の更なる整備に一定の示唆を与えうることが確認できた。

②【研究課題】山東省における聖論宣講活動の調査研究

【期間】2013 年 9 月 25 日～10 月 2 日

【山口大学実施部局】大学院東アジア研究科

【山口大学担当教員】阿部泰記（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】山東大学（中国）

【事業概要と得られた成果】

山東省における聖論宣講活動について、善成堂での資料収集により、説唱形式の聖論宣講が明国時代に山東省に伝承されていたことを確認した。また、山東大学外国語学院邢永鳳教授と

ともに済南市曲芸団副書記劉娟氏に現地取材を通じて、山東省の芸能方式による宣講活動を調査した。さらに山東太鼓の音楽・歴史・作品について知るため、上海図書館において資料収集を行った。

③【研究課題】戦前・戦中期の気象・農業資料と戦後新中国の資料との結合課による農業生産と気象環境の長期変動に関する研究調査

【期間】2013 年 9 月 15 日～9 月 21 日、2014 年 3 月 2 日～3 月 7 日

【山口大学実施部局】農学部

【山口大学担当教員】山本晴彦（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】

・東北師範大学　都市環境科学学院(平成 25 年 10 月より環境学院に改組)

・山東省農学科学院

・中国農業科学院　農業環境及び持続発展研究所

・中国気象局　気象科学研究所、生態環境および農業気象研究所

・北京師範大学　地表プロセス・資源生体国家重点実験室（以上、中国）

【相手方参加者】

張　継権（東北師範大学　都市環境科学学院・教授）、対　国（中国農業科学院　農業環境及び持続発展研究所・室長）、斉　以芳（山東省農学科学院　政工所・所長）、顧　衛（北京師範大学　地表プロセス・資源生体国家重点実験室・教授）

【事業概要と得られた成果】

戦中期の中国華北地方における華北農事試験場と北京大学農学院での農業試験研究に関する資料、戦前・戦中期の中国華北・華中地方における観象台・気象隊等での気象観測に関する資料の発掘・収集を中国本土まで拡大して実施することで、欠落した資料の収集ができた。

(2) 研究者招へい事業

中国内の学術交流協定校に勤務する研究者を短期間招へいすることにより、共同研究に関する協議等を通じて、中国内の学術交流協定校との交流活動の促進、学術研究の充実を図ることを目的とした事業。

【研究課題】インターネット日本語評価システム構築共同開発研究

【期日】2014 年 1 月 21 日～29 日

【山口大学実施部局】大学教育機構　留学生センター

【山口大学担当教員】赤木彌生（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】北京師範大学（中国）

【相手方参加者】林洪（北京師範大学日本語学科・准教授）

【事業概要と得られた成果】

林洪准教授を招へいし、日本語テストや日本語教材を北京師範大学や中国教育ネットで運用するためのホームページのあり方や運用方法について共同作業を行った。今後も継続して日本語テストや日本語教材を中国全土の師範大学へ配信していくことや、二大学間の交流についても協議を行った。